

2014年度 第1回 断層問題に関する理工学合同委員会・幹事会 議事録

日時：平成26年4月28日(月) 15:00～17:10

場所：JGS会館 3階 会長室

出席：國生剛治，大塚康範，堀宗朗，末岡徹，谷和夫

(欠席者：なし)

配布資料：

資料 1-1：(仮称)インフラストラクチャーの断層に関する工学的研究委員会の設立について(案)

資料 1-2：合同委員会の方針に関するメモ

資料 1-3：合同委員会 規則(案)

資料 1-4：合同委員会に関する意見(日本応用地質学会)

参考資料 1：活断層の工学的研究会・平成25年度第4回研究会・配布資料

参考資料 2：活断層の工学的研究会・平成25年度第5回研究会・配布資料

参考資料 3：応用地質・地盤・地下水・環境に関する工学の総合化と学会連合について
(応用地質・第53巻・第6号，巻頭言)

参考資料 4：ダムと動く大地の設計論(風土工学の視座と展開・五)

参考資料 5：Core Value Session of the 10th IAEG Congress・発表スライド

議事：

1. 委員長の挨拶と自己紹介

國生氏より挨拶があり，その後，参加者が自己紹介を行った。

2. 合同委員会の設立趣旨の説明

末岡氏より，資料 1-1 に基づいて，合同委員会の設立の経緯と趣旨が説明された。

3. 合同委員会の方針の検討

谷氏より，資料 1-2 に基づいて，合同委員会の方針に関する課題が説明された。さらに，大塚氏より，資料 1-4 に基づいて，日本応用地質学会からの意見が説明された。その後，以下の議論があった。

(1) テーマ

- 視点を構造物との関係に限定せずに，自然災害(地震災害)との関係に広げること，断層変位だけでなく地震動もテーマに含めることを希望する。
- 地震動は，テーマの幅が相当に広く，地震学に関わる理学分野の学会の参加も必要(3学会では不十分)ではないか。

(2) 委員会の目的

- 断層問題については，理学と工学が分断している現状が問題である。融合しないまでも，連携・協働して対処することや，情報・意見交換をすることに意義がある。
- 若い世代に，当該分野に関心を持つ者が寡少である。シニア世代が何をしてきたかを伝える必要がある。若手の研究者向けの教科書・専門書が，できたら英語で執筆できないか。
- 提言や啓蒙書は，社会・マスコミ・一般公衆という幅広い対象をメージしている。
- 研究作業はしない(できない)。いきなり提言の作成も難しいのではないか。
- 理学と工学の狭間にある断層問題について，社会的な視座を持って，社会にその本質を平易に解説する書籍を執筆・刊行することを最初の目的とする。

- 解説本の執筆の後に、または執筆作業を通じて、提言に関する議論が始められる。
- (3) 解説本
- 土木学会の関西支部がブルーバックスで解説本を発行し、約3万部が売れた。
 - 最初から出版社に話を持ち掛けると、十分に議論を尽くす余裕がなくなる虞がある。委員会の中で時間を十分に掛けて企画を練る必要がある。
 - 工程は、執筆作業に2年間程度(1年目は企画, 2年目は執筆)で、3年目に提言の作成作業に取り掛かるイメージか。
 - 全体の量は200-300ページで、10-30テーマで構成する。
 - 集集地震(台湾)後に、日本地震工学会で当該分野の研究委員会が作業した。執筆者の候補に、****氏(****)や****氏(****)が挙げられる。
 - リスクや確率論に係るテーマが重要である。メンバーを****氏(****)に相談する。
- (4) 委員会の名称
- 「断層問題に関する理工学合同委員会」とする。
- (5) 3学会の合同の意義
- 合同委員会は初めての試みなので、連携・協働の意義を明示的に伝える努力が必要である。
 - 来年度以降、各学会の年会において合同委員会によるセッションの担当、定期刊行物への活動内容の報告等を検討する。

4. その他

(1) 規則(案)の検討

谷氏より、資料1-3に基づいて、合同委員会の規則(案)が説明された。

- 本日の議論に従って、第1条(名称), 第4条(目的)等を修正する。
- 國生委員長, 大塚副委員長, 堀副委員長が各学会を代表することを確認した。
- 今年度の予算分担は、資料1-1の案(地盤工学会30万円, 日本応用地質学会10万円, 日本地震工学会10万円)とする。次年度以降は、別途、協議する。

(2) 今後の予定

- 連休明けまでに議事録を作成・確認する。5月末までにテーマ(案)と執筆候補者を谷氏に連絡する。
- 合同委員会の設立及び規則(案)について、次回の幹事会(7/10)までに、各学会の会長ないし理事会に承認してもらう。
- 第2回の幹事会は、7月10日(木)10-12時に、JGS会館の3階小会議室で開催する。

以上(文責: 谷 和夫)